



TITLE:

IX.ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の活動

AUTHOR(S):

景山, 節

CITATION:

景山, 節. IX.ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の活動. 霊長類研究所年報 2008, 38: 88-88

ISSUE DATE:

2008-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166575>

RIGHT:

IX. ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) の活動

平成 19 年度より、5 年間の計画で第 2 期ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が開始され、霊長類研究所は生理学研究所を中核機関とする「ニホンザル」プロジェクトにサブ機関として参加することとなった。第 2 期はニホンザルの全国研究者への本格的な供給体制を確立することを目標としている。

・善師野地区の第 2 キャンパスで展開している研究所の大型プロジェクト「リサーチリソースステーション (RRS)」では環境共存型大型放飼場の設置などの基盤整備がほぼ終了した。このことにより研究所の目ざす多様な霊長類研究の推進とともに、NBRP での全国へのニホンザル供給を実現するための繁殖・育成を進めることが可能となった。このため、ニホンザル母群の導入を急ぐ必要があり、全国各地において地域個体群の実態調査をおこなった。その中で可能な群れから順次母群として導入をおこなった。2007 年 12 月に野生ニホンザル 10 頭を研究捕獲し導入、引き続き 2008 年 3 月には有害鳥獣捕獲された 50 頭の野生群の導入をおこなった。また民間会社で飼育されるニホンザル 50 頭については、譲渡が可能となり、母群として研究所に導入することとした。現設備での飼育可能総数は 250 頭でありまだ母群導入は計画途上であることから、引き続き導入をおこない RRS、NBRP 両プロジェクトを推進していく必要がある。

平成 19 年度は、NBRP 全体で約 50 頭のニホンザルの供給がおこなわれたが、霊長類研究所は体制の整備が整わず 19 年度の供給は見送ることとなった。研究所で平成 18 年度までに導入されたニホンザルは約 50 頭であるが、すでに 25 頭のコザルが生まれている。また新たに導入した母群からの繁殖も予定されている。これらの繁殖・育成サルは 20 年度より順次供給していくこととなり、20 年度には 20 頭の供給を予定している。

平成 19 年度の NBRP 予算では、飼育や母群調査の費用の他に、追加として検疫舎関係の給排水の整備が認められ、施設棟の関連部分とともに給排水設備が一新された。検疫を始めサル類の健康管理に貢献できるものである。

(文責: 景山節)

X. 共同利用研究

1. 概要

平成 19 年度の共同利用研究の研究課題は以下の三つのカテゴリーで実施されている。

1. 計画研究
2. 自由研究
3. 施設利用

共同利用研究は、昭和 57 年度に「計画研究」と「自由研究」の 2 つの研究課題で実施された。昭和 62 年度からは「資料提供」(平成 14 年度から「施設利用」と名称を変更)を、また平成 6 年度からは「所外供給」(平成 14 年度から「所外貸与」と名称を変更し、平成 15 年度で終了)を新設し、現在に至っている。それぞれの研究課題の概略は以下のとおりである。

「計画研究」は、本研究所推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は 3 年の期間内に終了し、成果をまとめ、公表を行う。

「自由研究」は、「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者の自由な着想と計画に基づき、所内対応者の協力を得て、継続期間 3 年を日処に共同研究を実施する。

「施設利用」は、資料 (体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙、骨格、排泄物等) を提供して行われる共同研究である。

平成 19 年度の計画課題、応募並びに採択状況は以下のとおりである。

(1) 計画課題

(課題推進者のうち下線は代表者)

1. 哺乳類のマクロ形態学と神経生理学を統合した個体レベル比較生物学の確立

実施予定年度 平成 18 年度～20 年度

課題推進者: 遠藤秀紀、大石高生、脇田真清、鈴木樹理、毛利俊雄

哺乳類を対象に、個体と外界との相互関係の検討からマクロ形態形質を扱い、体内環境を理論化する視点から神経・内分泌メカニズムを検討する。両手法のデータをもとに、形態学と生理学を、進化学、行動生態学、考古・古生物学などの周辺領域を含めて統合し、個体レベル生物学の確立を目指す。

2. 霊長類の分子生理・分子病理学的特質に関する研究
実施予定年度 平成 18 年度～20 年度

課題推進者: 中村伸、林基治、浅岡一雄、清水慶子

霊長類の生理的および非生理的状态における生体反応、細胞機能あるいは器官調節について、分子、細胞、組織および生体レベルからの比較解析を通じて、霊長類の生理・病理学的特質を明らかにすると共に、それらの適応性や疾病感受性などについても検討する。

3. 霊長類コミュニケーションの進化と言語の起源

実施予定年度 平成 18 年度～20 年度

課題推進者: 松井智子、杉浦秀樹、室山泰之、香田啓貴、正高信男